

自己点検・自己評価

准看護科

令和元年度 自己点検・自己評価結果(平成31年4月1日～令和元年3月31日)

| 内容 | 評価項目 | 評価尺度3:よく当てはまる 2:大体当てはまる 1:当てはまらない | 教員評価 | 分析・対策 | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|--|---|------|---|---------|--|--------------|------|-------------|------|--------------|------|----------|------|-------|------|------|----|
| I 教育理念・教育目的 | 1 | 教育理念・教育目的は、自養成所の教育上の特徴を示している | 2.0 | 医師会立の看護学校としての、教育理念・教育目的に合っているが、教育上の特徴や学生の指針となるためにはやや具体性に欠けている。また、養成する看護師等の質を保証する教育方法や教育環境についても具体的に述べるできていない。卒業時点において持つべき資質の明示、地域の人に求められている内容にはなっていない。 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | 教育理念・教育目的は、法との整合性がある | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | 教育理念・教育目的は、学生にとって学習の指針になるように具体的に示している | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4 | 教育理念・教育目的は実際に学習の指針になっている | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | 教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育内容を設定しているかを述べている | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 6 | 教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育方法をとるのかを述べている | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 7 | 教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育環境をとるのかを述べている | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 8 | 教育理念・教育目的は、看護、看護学校教育、学生観について明示している | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 9 | 看護、看護学教育、学生観は実際に教師の教育活動の指針となっている | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 10 | 教育理念・教育目的は、養成する看護師等が卒業時点においても持つべき資質を明示している。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 11 | 卒業時点にもつべき資質は、社会に対する看護の質を保障するのに妥当なものとなっている | | | | | | | | | | | | | | | | |
| II 教育目標 | 1 | 教育目標は、教育理念・教育目標と一貫性がある | 2.0 | 教育目標は、目標設定の意図を記述したものが無い。卒業生の特性と各学年の到達目標は示されており、教育活動のゴールが読み取れるものとなっている。課題としては、継続教育の考え方が示されていないため、今後検討して行く必要がある。 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | 教育目標は、設定した教育内容を網羅している | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | 教育目標は、最上位の目標として、教育活動のゴールが読みとれるものとなっている。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4 | 教育目標は、目標内容と到達レベルが対応している | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | 教育目標は、具体的で実現可能なものとなっている | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 6 | 看護実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長を促すための側面から教育目標を設定している | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 7 | 卒業後の継続教育の考え方を示した上で、教育目標を設定している | | | | | | | | | | | | | | | | |
| III 教育課程経営 | 1 | 教育課程編成者と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育の評価との関連性を明確に理解している | 2.0 | 指定規則、別表4に基づき、科目は法を遵守できている。単元の時間数も適切である。科目と単元の構成および各ねらいについては生徒便覧に記載し、入学時オリエンテーションで説明を行っている。科目、単元の構成と時間数および科目履修の方法とその評価規準については、2022年度のカリキュラム改正に向けて検討していく。評価方法は、受験資格の指定項目通りであるが、評価方法についても今後検討していく。 令和元年度の教育・研究活動の実施については、以下の通りである。 <table border="1" data-bbox="1329 1498 1773 1750"> <thead> <tr> <th colspan="2">教育・研究活動</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>福岡県看護教員養成講習会</td> <td>1名参加</td> </tr> <tr> <td>日本看護学校協議会学会</td> <td>1名発表</td> </tr> <tr> <td>日本看護学会(看護教育)</td> <td>1名参加</td> </tr> <tr> <td>日本看護技術学会</td> <td>1名参加</td> </tr> <tr> <td>セミナー等</td> <td>5名参加</td> </tr> <tr> <td>伝達講習</td> <td>6回</td> </tr> </tbody> </table> | 教育・研究活動 | | 福岡県看護教員養成講習会 | 1名参加 | 日本看護学校協議会学会 | 1名発表 | 日本看護学会(看護教育) | 1名参加 | 日本看護技術学会 | 1名参加 | セミナー等 | 5名参加 | 伝達講習 | 6回 |
| | 教育・研究活動 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 福岡県看護教員養成講習会 | 1名参加 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 日本看護学校協議会学会 | 1名発表 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 日本看護学会(看護教育) | 1名参加 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 日本看護技術学会 | 1名参加 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | セミナー等 | 5名参加 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 伝達講習 | 6回 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | 教育課程編成者と教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | 看護学の内容について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4 | 学修の到達について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | 学生の成長について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 6 | 明確な考え方と根拠をもって科目を構成している | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 7 | 明確な考え方と根拠をもって単元を構成している | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 8 | 科目と単元の構成の考え方は教育理念・目的、教育目標と整合性がある | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 9 | 構成した科目は看護師等を養成するのに妥当である | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 10 | 構成した科目は養成所の特徴をあらわしている | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 11 | 単位履修の方法とその制約について教師・学生の双方がわかるように明示している | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 12 | 単位履修の方法は学生の単位履修を支援するものとなっている | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 13 | 単位履修制の考え方を踏まえつつ、看護師等になるための学修の質を維持できるように、科目の配列をしている | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 14 | 単位認定の基準は看護師等に必要学修を認めるものとして妥当である | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 15 | 単位認定の方法は看護師等に必要学修を認めるものとして妥当である | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 16 | 他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えている | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 17 | 教育課程を評価する体系を整えている | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 18 | 評価結果の活用における倫理規定を明確にしている | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 19 | 教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 20 | 教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えている | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 21 | 教育課程の実践者である教員が自ら成長できるよう、自己研鑽のシステムを整えている | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 22 | 教員が相互に成長できるよう、相互研鑽のシステムを整えている | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 23 | 臨地実習施設は、養成所の個別の教育理念・教育目的、教育目標を理解している | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 24 | 臨地実習施設は学生の看護実践の学習を支援する体制を整えている | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 25 | 臨地実習指導における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者の役割を明確にしている | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 26 | 臨地実習指導における学生の学びを保障するために、教員の役割を明確にしている | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 27 | 臨地実習指導者と教員の協働体制を整えている | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 28 | 学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示している | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 29 | 対象者の権利を尊重するための考え方に基づいて、学生への指導を計画的に行っている | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 30 | 臨地実習において学生が関係する事故を把握、分析している | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 31 | 学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っている | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 内容 | 評価項目 評価尺度3:よく当てはまる 2:大体当てはまる 1:当てはまらない | 教員評価 | 分析・対策 |
|------------------|--|------|---|
| IV 教授・学習・評価過程 | <ol style="list-style-type: none"> 1 授業の内容は、教育課程との関係において、当該学生のための授業内容として設定されている 2 授業内容のまとまりの考え方を明確に述べている 3 授業内容のまとまりの考え方は、科目目標との整合性をもっている 4 授業内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥当性がある 5 授業内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっている 6 授業形態(講義、演習、実験、実習)は、授業内容に応じて選択している 7 授業展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践している 8 授業の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している 9 学生に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている 10 評価計画を立案し、実施している 11 評価結果に基づいて、実際に授業を改善している 12 学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている 13 教育目標の達成状況を多面的に把握している 14 学生に単位認定のための評価基準と方法を公表している 15 単位認定の評価には公平性が保たれている 16 シラバスの提示や学習への指導は、養成所全体としての一貫性がある 17 シラバスの提示や学習への指導は、学生の学習への動機付けと支援になっている | 2.0 | <p>授業内容の重複については、配慮はしているが可視化できておらず明確とは言えない。今後、マトリックスなどを作成して行く必要がある。授業計画は、事前に準備ができないこともあるため、計画的に取り組む必要がある。目標評価については、授業評価、実習評価、卒業時アンケートを実施している。授業評価は各教員が自己の授業を振り返り授業改善に向けて取り組んでいる。実習評価は、実習指導者会で結果を公表しており、評価結果の把握は出来ている。しかし、授業評価は教務と一部の講師だけであり、今後、全科目のカリキュラムの評価を基に目標評価ができるように整備していく必要がある。卒業時アンケートは、集計結果を教員全員に周知し、次年度へ生かすよう会議をもつようにしている。しかし、昨年度との比較検討など数値に基づいたデータの分析ができていない。また、シラバスは基礎看護技術において、内容の提示ができていないため、生徒の学習への動機づけとなるように学習内容を追加する。</p> |
| V 経営・管理過程 | <ol style="list-style-type: none"> 1 養成所の管理者は教育理念・教育目的についての考え方を明示している 2 養成所の管理者は教育課程経営についての考え方を明示している 3 養成所の管理者は教育評価についての考え方を明示している 4 養成所の管理者は養成所の管理運営等についての考え方を明示している 5 明示した管理者の考え方と、設置者の意思とは一貫性がある 6 教職員は養成所の設置者と管理者の考え方を理解している 7 養成所の組織体制は、教育理念・目的を達成するための権限や役割機能が明確になっている 8 意思決定システムが明確になっている 9 意思決定システムは、組織構成員の意思を反映できるように整えられている 10 意思決定システムは、決定事項が周知できるように整えられている 11 組織の構成と教職員の任用の考え方と、教育理念・教育目的達成との整合性がある 12 教職員の資質の向上についての考え方と対策には教育理念・教育目的達成との整合性がある 13 財政基盤を確保することについての考え方が明確である 14 財政基盤を確保することについての考え方は、学習・教育の質の維持・向上につながっている 15 教職員は、養成所がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解している 16 教職員のそれぞれの観点から財政についての意見は、経営・管理過程に反映できるようになっている 17 学習・教育環境の整備について、管理者の考え方を明示している 18 管理者の考え方に基づいて整備計画を立案し、実施している 19 看護の専門職教育に必要な施設設備を計画的に整備している 20 医療・看護の発展や学生層の変化に合わせて、施設設備を整備・改善している 21 養成所が設置されている地域環境との関連から学生および教職員にとっての福利厚生施設の整備を検討している 22 学生が学生生活を円滑に送り、教職員が職務を円滑に遂行できるように施設整備を整備している 23 学生が入学後に学修を継続できる支援体制を多角的に整えている 24 学生が活用しやすいように学生生活の支援体制を整えている 25 支援体制は、実際に学生に活用され学修の継続を助けている 26 教育・学習活動に関する情報提供を関係者(保護者等)に行っている 27 関係者(保護者等)への情報提供は関係者から協力・支援を得ることにつながっている 28 看護師等を養成する機関としての存在を、十分にアピールする広報活動を適切に行っている 29 広報の内容は、社会的説明責任を果たすものになっている 30 養成所は明確な将来構想のもとに、運営の中・長期計画、短期計画、年間計画を立案している 31 その実施・評価は将来構想との整合性をもっている 32 自己点検・自己評価の意味と目的を理解している 33 実際に自己点検・自己評価を行うための知識と方法を明確にもっている 34 自己点検・自己評価体制を整え、運用している 35 自己点検・自己評価は、養成所のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックするように機能している 36 自己点検・自己評価体制は、養成所の教育理念・教育目的、教育目標の維持・改善につながるように機能している | 2.0 | <p>学校の円滑な運営を図るため、運営会議(4回/年)教務会議(1回/月)、講師会・実習指導者会(2回/年)、入学試験委員会(令和元年度は5回)、進級判定会議(3回)、主任会議、評価委員会を実施している。その中で、管理者の考え方や決定事項等は周知されている。施設設備や学生生活の支援については、ハード面など難しいところもあるが、年に2回、学校内の危険箇所点検を実施し、問題があればすぐに対応するようにしている。令和元年度はトイレ、階段の手すりの修理を行った。学生生活への支援については、各種奨学金について周知し、対応している。また、スクールカウンセラーを配置し(非常勤)、生徒の相談を受ける体制は整えているが、令和元年度の相談実績は0であった。養成所の情報提供については、ホームページや進学サプリーへの参画、lineやインスタグラムなどのSNSを通し情報を発信している。進学サプリーを通しての募集要項、願書の発行部数は増加したが、(187部発行、前年度比225%)出願率は2%である。今後入学生確保へと結びつけられるように広報活動に努めていく。</p> <p>自己点検・自己評価体制も評価委員会を立ち上げ6年が経過し体制も整いつつある。令和2年度より学校関係者評価も取り入れ、教育活動の向上、改善に努める。</p> |

| 内容 | 評価項目 | 評価尺度3:よく当てはまる 2:大体当てはまる 1:当てはまらない | 教員評価 | 分析・対策 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------|---|--|---|--|---------|--|--|--|--|--------|--------|--------|--------|--------|------|-----|-----|-----|-----|---------|--|--|--|--|---------|---------|---------|---------|---------|----|----|-----|----|----|------------------------|--|--|--|--|
| VI 入学 | 1 | 教育理念・教育目的との一貫性をもって入学者選抜についての考え方を述べている | 1.0 | 募集確保に向けて、学校訪問(のべ66校)、ガイダンス(4回/年)への参加、オープンキャンパス(4回/年)、進学サプリの加入など努力している。しかし、令和2年度も定員割れ(充足率42.6%)であった。 <table border="1"> <tr><th colspan="5">受験者数の推移</th></tr> <tr><th>2016年度</th><th>2017年度</th><th>2018年度</th><th>2019年度</th><th>2020年度</th></tr> <tr><td>111名</td><td>87名</td><td>66名</td><td>49名</td><td>37名</td></tr> </table> <table border="1"> <tr><th colspan="5">退学者数の推移</th></tr> <tr><th>2016年度生</th><th>2017年度生</th><th>2018年度生</th><th>2019年度生</th><th>2020年度生</th></tr> <tr><td>9名</td><td>8名</td><td>11名</td><td>4名</td><td>1名</td></tr> <tr><td colspan="5">2019、2020年度生は6月19日現在の数</td></tr> </table> | 受験者数の推移 | | | | | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 111名 | 87名 | 66名 | 49名 | 37名 | 退学者数の推移 | | | | | 2016年度生 | 2017年度生 | 2018年度生 | 2019年度生 | 2020年度生 | 9名 | 8名 | 11名 | 4名 | 1名 | 2019、2020年度生は6月19日現在の数 | | | | |
| | 受験者数の推移 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 111名 | 87名 | 66名 | 49名 | 37名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 退学者数の推移 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2016年度生 | 2017年度生 | 2018年度生 | 2019年度生 | 2020年度生 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9名 | 8名 | 11名 | 4名 | 1名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2019、2020年度生は6月19日現在の数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析し、検証している | | 受験者数の減少により入学者選抜が厳しい状況である。また。入学しても学業不振による留年、進路変更による退学者も多く悪循環となっている。今後も入学生確保に向けての取り組みの継続と、社会人入学生の確保に重点を置く。令和2年度は社会人入試を新たに導入する。評価として、入学選抜についての考え方の明示や選抜方法の妥当性など教育効果の視点からの分析、検証までは行っていない。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| VII 卒業・就業・進学 | 1 | 卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、計画的に行っている | 1.5 | 福岡県准看護師試験結果は100%合格であり、令和元年度の目標は達成することができた。近郊への就職率は74.5%と、地域医療を支える人材育成としての役割は果たせていると考える。進学率は74.5%(昨年は53.7%)、そのうち本校への進学者は29名(全進学者の76.3%)であった。今後の課題として、卒業生の就業先での評価の把握や就業先との情報交換、調査等は実施していないため、就業先との連携を図りながら地域に定着し貢献していけるように支援して行く必要がある。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | 卒業時の到達状況を分析している | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | 卒業生の就業・進学状況を分析している | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4 | 卒業生の到達状況、就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | 卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 6 | 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 7 | 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 8 | 卒業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| VIII 地域社会／国際交流 | 1 | 社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している | 1.6 | 地域社会については、大牟田市健康づくり市民大会への参加や学校周辺の清掃活動、ペットボトルのキャップ回収などボランティア活動を実施している。今後は、より学校からの情報発信や地域社会へ貢献できる手段を持つべきである。国際交流については、国際的視野を広げる環境ではないため評価は低くなった。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | 看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | 養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段をもっている | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4 | 養成所から地域社会へ情報を発信する手段を持っている | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | 養成所が設置されている地域の特徴を把握している | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 6 | 地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れている | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 7 | 国際的視野を広げるための授業科目を設定している | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 8 | 国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 9 | 海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制を整えている | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 10 | 留学や海外に置いて看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制を整えている | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| IX 研究 | 1 | 教員の研究活動を保障(時間的、財政的、環境的)している | 2.0 | 令和元年度も1名が研究活動に取り組み、日本看護学校協議会学会で発表することができた。今後も教員相互で支援し合う体制の強化及び雰囲気作りが必要である。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | 教員の研究活動を助言・検討する体制を整えている | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | 研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が養成所内にある | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

令和元年度 自己評価・自己点検結果

評価基準: よく当てはまる…3 大体当てはまる…2 当てはまらない…1

| | | |
|------|------------|-----|
| I | 教育理念・教育目的 | 2.0 |
| II | 教育目標 | 2.0 |
| III | 教育課程経営 | 2.0 |
| IV | 教授・学習・評価過程 | 2.0 |
| V | 経営・管理過程 | 2.0 |
| VI | 入学 | 1.0 |
| VII | 卒業・就業・進学 | 1.5 |
| VIII | 地域社会／国際交流 | 1.6 |
| IX | 研究 | 2.0 |



